

令和6年度病害虫発生予察警報第1号

令和6年7月26日
鳥取県病害虫防除所

警報の概要

果樹カメムシ類の発生量が多いことから、病害虫発生予察注意報第2号（令和6年7月10日付）を発表し、防除の徹底を呼びかけているが、依然としてカメムシ類の発生量は多く、一部の果樹園において果実被害が認められている。今後、園地への多飛来が継続することが予想され果樹類の被害防止のため、最大限の警戒が必要である。

病害虫名：果樹カメムシ類

- 1 対象作物 果樹全般
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生量 多い
- 4 警報発令の根拠

- (1) 7月中旬現在、主な加害種であるチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ及びツヤアオカメムシの誘殺数は平年と比較して多く、予察灯3か所における7月中旬までの誘殺数の合計値は、チャバネアオカメムシで26,749頭（平年：1,238頭）と平年の約21.6倍、クサギカメムシで7,943頭（平年：253頭）と31.4倍、ツヤアオカメムシで38,035頭（平年：520頭）と73.1倍となっている（表1）。
- (2) 集合フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、平年又は前年に比べて多い（表2）。
- (3) 7月下旬現在、一部のナシ園及びカキ園においてカメムシ類による果実被害が認められている。
- (4) 向こう1か月の気象予報（広島地方気象台，7月18日発表）から、平年に比べて気温が高くなることが見込まれ、カメムシ類の加害活動に好適な条件になると見込まれる。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいため、園内外をこまめに見回り早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う。特に、過去の多発年に被害を受けた地域では注意する。また、地域内でカメムシ類の飛来情報や防除計画等の共有を徹底する。
- (2) 防除は、カメムシ類が飛来する夕方か早朝が効果的である。ただし、薬剤が乾きにくい気象条件では、薬害が発生しやすいため、夕方散布を実施しない。また、カメムシ類は移動性が高いため、広域的な防除に努める。
- (3) ピレスロイド系殺虫剤の多用が、カイガラムシ類及びハダニ類の発生を助長した事例があるので、必要最小限の使用にとどめる。
- (4) 各樹種の防除薬剤は表3を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業等者の安全の確保に努め、防除を行う際は農作業安全に十分に注意する。また、養蜂が行われている地区では蜜蜂の巣箱やその周辺に農薬が飛散しないように注意する。



チャバネアオカメムシ



クサギカメムシ



ツヤアオカメムシ

図1 果樹カメムシ類における主要加害種



ナシ‘豊水’生育期



カキ‘西条’生育期



ナシ‘二十世紀’収穫期

図2 果樹カメムシ類による被害果実

表1 予察灯における果樹カメムシ類の総誘殺数（4月上旬～7月中旬）

調査地点	チャバネアオカメムシ		クサギカメムシ		ツヤアオカメムシ	
	令和6年	平年	令和6年	平年	令和6年	平年
八頭町	9,200	432	3,416	153	6,892	51
湯梨浜町	10,966	228	2,526	53	16,195	17
北栄町	6,583	578	2,001	47	14,948	452
合計	26,749	1,238	7,943	253	38,035	520
平年比（倍）	21.6		31.4		73.1	

平年：八頭町はR3年～R5年の平均値、北栄町はH26年～R5年の平均値、湯梨浜町はR5年の前年値。

表2 集合フェロモントラップにおける
チャバネアオカメムシの総誘殺数
（4月上旬～7月中旬）

調査地点	令和6年	比較
河原町	23,202	164（前年値）
北栄町	1,713	219（平年値）

比較：河原町はR5年の前年値。北栄町はH26年～R5年の平均値。

表3 果樹カメムシ類の主な防除薬剤と使用基準*

作物名	農薬の名称	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	IRAC コード**	薬剤の系統
なし	ジノテフラン水溶剤 (アルパリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000 倍	収穫前日まで	3 回以内	4A	ネオニコチノイド系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000 倍	収穫前日まで	3 回以内		
	シペルメトリン水和剤 (アグロスリン水和剤)	1,000 倍～ 2,000 倍	収穫前日まで	3 回以内	3A	ピレスロイド系
	シペルメトリン水和剤 (イカズチWDG)	1,500 倍	収穫前日まで			
	テルスターフロアブル	3,000 倍～ 6,000 倍	収穫前日まで	2 回以内		
かき	ジノテフラン水溶剤*** (アルパリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000 倍	収穫前日まで	3 回以内	4A	ネオニコチノイド系
	クロラントラニリプロール ジノテフラン水和剤*** (キックオフ顆粒水和剤)	2,000 倍	収穫前日まで		ジノテフラン : 4A	ジアミド系
					クロラントラ ニリプロール : 28	
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000 倍	収穫 3 日前まで	3 回以内	4A	ネオニコチノイド系
	アグロスリン水和剤	1,000 倍～ 2,000 倍	収穫前日まで	3 回以内	3A	ピレスロイド系
	テルスターフロアブル	3,000 倍～ 6,000 倍	収穫 3 日前まで	2 回以内		
	キラップフロアブル	2,000 倍	収穫 7 日前まで	2 回以内	2B	フェニルピラゾール系
ぶどう	ジノテフラン水溶剤**** (アルパリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000 倍	収穫前日まで	3 回以内	4A	ネオニコチノイド系
	ダントツ水溶剤	2,000 倍～ 4,000 倍	収穫前日まで	3 回以内		
	テッパン液剤	2,000 倍	収穫前日まで	2 回以内	28	ジアミド系
りんご	ジノテフラン水溶剤 (アルパリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000 倍	収穫前日まで	3 回以内	4A	ネオニコチノイド系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000 倍	収穫 7 日前まで	2 回以内	4A 3A	ネオニコチノイド系 ピレスロイド系
	テルスターフロアブル	3,000 倍	収穫前日まで	1 回以内		

*農薬の登録内容は令和6年7月25日現在

**IRAC コードは殺虫剤の作用機構の分類を示す。

***ジノテフランを含む農薬の総使用回数は、4回以内（塗布は1回以内、散布は3回以内）

****ジノテフランを含む農薬の総使用回数は、3回以内（塗布は1回以内）

(お問い合わせ) 鳥取県病害虫防除所（鳥取県園芸試験場内、TEL：0858-37-4211）



ホームページ2次元コード

この情報は、鳥取県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<https://www.jppn.ne.jp/tottori/> です